

公共図書館で なぜ健康情報サービスを 提供するのか

山重壮一

(香美市立図書館統括官 元オーテピア高知図書館専門企画員)

理由1

- 患者自身や家族なども病気について学習することが必要になった
 - 元からそうじゃないのか？
 - 以前は、患者や家族などにあまりにも知識がないため、医者言う通りにしなきゃダメじゃないかとか言うことができなかった。
 - そもそも、患者や家族などが理解できる知識を入手することが困難だった。
 - 大学図書館は一般の人が気軽に利用できるところではない。
 - そもそも、大学はそんなにあちこちにあるわけではない。
 - 書店でも医学書などを揃えるところは少ない。
 - 公共図書館の医学書の棚は惨憺たる状況。

理由2

- 超高齢社会
 - 親の病気や介護
 - 一方で、雇用は不安定化、給料も上がらず、年金支給年齢が上がり、退職金も減り、「おひとりさま」も増加し、医療費負担も増 → 自身の老後の不安
 - 子どものある人でも、発達障害などの増加
 - みんなが健康のことを考えざるを得なくなる（お金の不安が健康の不安へ）

理由3

- 医療・保健関係者以外にも健康のことを考える必要が大きくなった
 - 農家
 - 食料品店
 - 飲食店
 - 例) 喫茶店のモーニングで卵が引っ込んだり、出たりしている
 - 食品(加工)会社
 - 教育関係者
 - 管理職
 - 部下のサポート
 - 特にメンタルヘルス

世間の惨状 1

- 大書店の医学書コーナーにすずなりの人
- ココアばかり飲む人、バナナばかり食べる人（おそらく激減傾向）
- タバコを吸う人は減ったが、酒飲みは意外に多い（コンビニ、スーパーでじゃんじゃん買える）
- プチ断食が流行る
- 肉を食わないばかりか、蛋白質を取らない人もいる
- 魚も野菜もろくに食べない

世間の惨状 2

- 糖質ダイエット
- 意外と塩分などは無神経（目に見えないとわからない？）
- サプリメントてんこもり（意外とたくさんいる）
- 結局、運動などはやろうとしない、やっている人は排ガスの多い道路を走ったり・・・
- 基本的に「歩かない」、普通に水飲まない
- 短眠で大丈夫とか、やばい生活スタイルを擁護してくれる本を根拠もなく自分に当てはめる

公共図書館の惨状 1

- 公共図書館は資料費が非常に少ない
 - 半数は年間1000万円もない。
 - 4分の1は年間500万円もない。
 - 一方で、年間に出る出版物を1タイトル1冊ずつ全部買えば、およそ2億円弱くらいか
- このような状況で、ちゃんとした(値段の高い)医学書は買えない

公共図書館の惨状 2

- よくある公共図書館の医学書の棚は惨憺たる状況
 - ベストセラーになる「医者に殺される」とかその類の本
 - ヘンテコな健康法
 - 明らかに営業目的の本

公共図書館の惨状 3

- 公共図書館の司書の状況
 - そもそも司書がほとんどいない図書館が多数
 - いても、会計年度任用職員や委託や指定管理者のスタッフなど不安定な雇用の司書が多数
 - 医学書の選定はほとんどできていない
 - 公共図書館に専門書は不要という誤った認識が一部にある

「図書館の自由」の「問題」

- 公共図書館は、利用者の希望があれば、何でも提供する。
- 怪しい「健康法」「治療法」の本や雑誌も例外ではない。
- どこが怪しいのか、具体的に調べたくて利用する人もいるから、当然である。
- しかし、大方は、その怪しいものにはまりそうな人である。

解決策

- 公共図書館であっても、内容が信頼が置けないものなどは、一定の提供の制限を行う。 → 公共図書館の自殺である。
- 内容の信頼性が一定水準以上のものを、多数揃える。
- 一定のリテラシーのある人なら、比較して読めば、どちらが信頼性が高いかは判断できる。
- 情報リテラシー向上支援の取組が必要。

一般の人はこんなこともたいてい知らない

- 標準治療の存在・・・スーパードクターとかゴッドハンドとかそういうのが大好き
- in vitroとin vivoの違い
- 怪しい医学雑誌の存在
- 怪しい医学博士の存在
- 比較対照実験の意味・・・before,afterだけで信じ込む
- 統計・・・統計的代表的意味、コホート
- 症状と病気の関係・・・症状が自覚されなければ、病気はないと本気で思っている人は結構いる

連携・協力の必要性 1 主体

- 図書館間・・・公共、大学、学校、医学専門、病院、患者
- 関係機関・行政庁・・・医療、保健衛生機関、教育機関その他
- 企業・事業家・・・食品会社、農家、飲食店、食料品店

連携・協力の必要性 2 内容

- 資源の共有、相互利用
- レファレンス／レフェラル・サービス
- 情報発信・広報協力
- プロモーション・・・図書の展示・貸出など
- プログラム・・・情報リテラシー向上支援など
- 交換研修・共同研修

おしまい(ありがとうございました)
